

## 「教科等研究助成事業」に係る源泉徴収税納入のお願い

「教科等研究助成事業」において、助成金を**講師謝金**として執行される場合は、**源泉徴収税を各学校園が直接、所管の税務署に**納めていただく必要があります。私どもは、公益財団法人として国の認可を受けて活動しており、予算の執行については、納税義務などの適正な会計処理を厳しく問われています。

つきましては、本事業の要項等に詳しく説明をさせていただいておりますので、遺漏のないようくれぐれもよろしくお願いいたします。

何卒、ご理解ご協力のほど重ねてお願いします。

## 源泉徴収税額の計算方法について（参考）

### ① 講師料から源泉徴収税額を減額して支払う場合

〔計算方法〕 税率が 10.21%

講師料×0.1021＝源泉徴収税額

講師料－源泉徴収税額＝講師の手取額

〔30,000 円の場合〕

30,000 円×0.1021＝**3,063 円**

⇒学校園が所管の税務署へ納付（領収証書を報告時に添付）

30,000 円－3,063 円＝26,937 円 ⇒講師の手取額

領収書例：講師手取額 26,937 円の場合

|       |               |
|-------|---------------|
| 〇〇学校様 | 領 収 書         |
|       | ¥ 30,000      |
|       | 講師謝金 26,937 円 |
|       | 源泉徴収 3,063 円  |
| 年 月 日 | _____ 印       |

#### 【参 考】

| 講師料             | 源泉徴収税額         | 講師の手取額          |
|-----------------|----------------|-----------------|
| 10,000 円        | 1,021 円        | 8,979 円         |
| 20,000 円        | 2,042 円        | 17,958 円        |
| <b>30,000 円</b> | <b>3,063 円</b> | <b>26,937 円</b> |
| 40,000 円        | 4,084 円        | 35,916 円        |
| 50,000 円        | 5,105 円        | 44,895 円        |

### ② 講師料とは別に源泉徴収税額を支払う場合（講師料に源泉徴収税額を含まない場合）

〔計算方法〕 税率が 10.21%

講師料÷0.8979＝総支払金額

（1 円未満の端数は切り捨てます）

総支払金額－講師料＝源泉徴収税額

※0.8979 の考え方は 1-0.1021=0.8979

〔30,000 円の場合〕

30,000 円÷0.8979＝33,411 円

33,411 円－30,000 円＝**3,411 円**

⇒学校園が所管の税務署へ納付（領収証書を報告時に添付）

領収書例：講師の手取額 30,000 円の場合

|       |               |
|-------|---------------|
| 〇〇学校様 | 領 収 書         |
|       | ¥ 33,411      |
|       | 講師謝金 30,000 円 |
|       | 源泉徴収 3,411 円  |
| 年 月 日 | _____ 印       |

#### 【参 考】

| 講師料（総支払金額）      | 源泉徴収税額         | 講師の手取額          |
|-----------------|----------------|-----------------|
| 11,137 円        | 1,137 円        | 10,000 円        |
| 22,274 円        | 2,274 円        | 20,000 円        |
| <b>33,411 円</b> | <b>3,411 円</b> | <b>30,000 円</b> |
| 44,548 円        | 4,548 円        | 40,000 円        |
| 55,685 円        | 5,685 円        | 50,000 円        |

#### 【その他】

※源泉徴収税額を最寄の税務署にお支払いをお願いします。

※上記①・②のどちらのパターンで執行されるかは、学校側と講師の方とでご相談ください。

※納付書は最寄りの所管税務署へお問い合わせください。

※詳しくは、国税庁のホームページもしくは最寄りの所管税務署にお問い合わせください。

## 教科等研究助成金の使途事例について

日教弘兵庫支部

| 対象となる例   | 対象とならない例  |  |  |   |  |
|--|---|--|--|---|--|
| <p>○講師謝金等に係る経費<br/>講師謝金〔源泉徴収税納付が必要〕<br/>講師交通費〔実費で 根拠資料が必要〕<br/>講師宿泊費</p> <p>○教具・教材等に係る経費<br/>研究テーマに沿った教材・教具<br/>デジタル教材・タブレット用教材ソフト<br/>意見交換用ホワイトボード<br/>理科実験用材料〔消耗品的なもの〕</p> <p>○図書費・消耗品費等に係る経費<br/>研究用書籍<br/>児童用書籍<br/>A4コピー用紙<br/>ラミネートフィルム<br/>拡大コピー用感熱紙<br/>色画用紙、模造紙<br/>マジック、色鉛筆、マグネットシート<br/>CD-ROM DVD-ROM<br/>水槽等一式、魚の餌<br/>園芸用土、花苗等<br/>活動用ビブス、たすき 等</p> <p>○その他の経費<br/>児童生徒の活動に伴う交通費<br/>〔領収書が必要〕<br/>研究紀要等の印刷製本にかかる経費<br/>研究に必要なセミナーへの参加費<br/>〔セミナーの資料の添付が必要〕<br/>研究発表会用看板、横断幕等の作成費</p> | <p>▲研究に直接関係のない消耗品、書籍等の経費</p> <p>▲学校備品等に係る経費<br/>校務用パソコン<br/>校務用印刷機のトナー<br/>学校管理備品購入費<br/>〔ビデオカメラ、レーザープリンター等〕</p> <p>▲その他の経費<br/>申請者の人件費〔所属所教職員を含む〕<br/>教職員の交通費<br/>案内状発送等の運営に関する通信費<br/>〔講師との連絡等、必要最小限のものは除く〕<br/>飲食に伴う経費〔講師も含む〕<br/>施設入場料〔社会見学等〕<br/>施設使用料、借上料</p> <p>▲クレジットカード払いの領収書<br/>カード払いでなければ、オンラインでの購入も可能です。〔学校名の領収書が必要〕</p>   |  |  |   |  |
|  | 申請書・報告書の費目例   |  |  |   |  |
|  | <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師謝金</li> <li>・源泉徴収税</li> <li>・講師交通費</li> <li>・消耗品費</li> <li>・研究図書費</li> <li>・児童図書費</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; border: none;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材費</li> <li>・印刷製本費</li> <li>・児童生徒交通費</li> <li>・作成費</li> <li>・参加費</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: right; border: none;">等</td> <td style="border: none;"></td> </tr> </table> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師謝金</li> <li>・源泉徴収税</li> <li>・講師交通費</li> <li>・消耗品費</li> <li>・研究図書費</li> <li>・児童図書費</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材費</li> <li>・印刷製本費</li> <li>・児童生徒交通費</li> <li>・作成費</li> <li>・参加費</li> </ul> | 等 |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師謝金</li> <li>・源泉徴収税</li> <li>・講師交通費</li> <li>・消耗品費</li> <li>・研究図書費</li> <li>・児童図書費</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材費</li> <li>・印刷製本費</li> <li>・児童生徒交通費</li> <li>・作成費</li> <li>・参加費</li> </ul>  |  |  |   |  |
| 等  |   |  |  |   |  |

### 【備品等の原則】

汎用性のある機器等で、助成目的以外の場においても使用が可能であり、本来は学校や行政が充当すべきものは助成対象としません。

ただし、汎用性のある機器であっても、助成額の範囲内で購入でき、かつ、学校が掲げる教育研究に関連する教育活動の教材・教具として使用される場合に限り助成対象とします。

※購入（執行）の目的は、申請書と成果報告書に明記してください。

※助成金の執行に際し、「費目」が申請書と異なる場合は、兵庫支部までご相談ください。**費目変更願書**の提出が必要となります。

※判断の難しい使途をお考えの場合は、兵庫支部までお問い合わせください。